資料４

重点項目①　新たな西成区の地域福祉推進体制（つたえる、つくる）

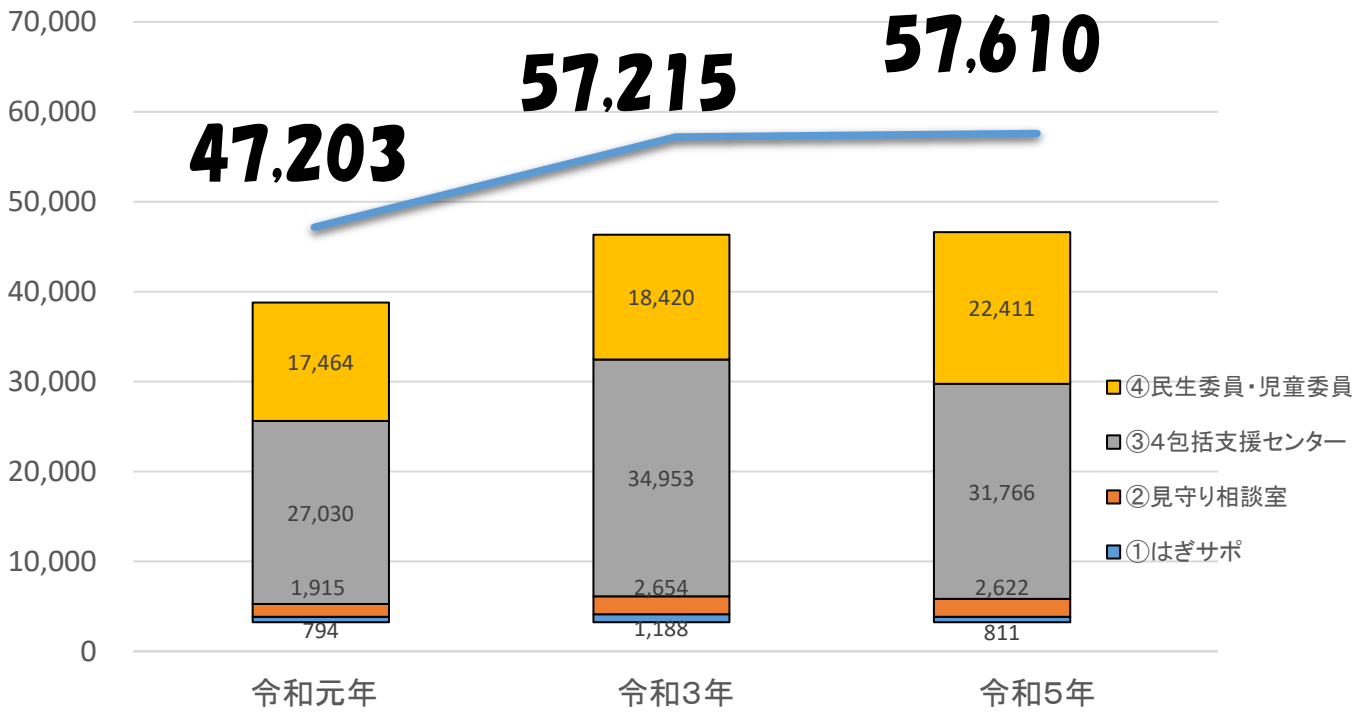
◆気にかける・つながる・支え合うために

地域の気づきと
相談窓口・専門職とをつなぐパイプ役

地域と連携する窓口（かけはし）の充実

主な相談先と相談件数

（※延べ件数・本人からの相談も含む）



まとめ

主な相談先への相談件数から、相談先の周知ができていること、ある程度の相談内容は地域内で解決されていると考えられる。地域と連携する窓口（かけはし）は充実しつつある。

↓

現在の取り組みを継続して実施し、さらなる充実を図る。

重点項目②　地域福祉活動への参加促進と担い手の確保（一緒にすすめる）

◆地域活動へ参加するためのきっかけづくり

e（イー）スポーツ体験会の様子

〇令和5年度　参加数：194人（令和4年度：15人）
〇令和7年3月　e(イー)スポーツ大会を予定

地域のボッチャ活動の様子

〇ボッチャ人口の増加；小中学校・町会未加入グループなど
〇障がい者地域自立支援協議会：12チーム
〇第2回ジャガピー杯ボッチャ大会：予選18チーム　決勝24チーム

まとめ

- eスポーツは男性の参加率が高く、新たな参加機会として有効な活動であると考えられる。
- ボッチャは、住民同士の自主的な活動が活発化しており、ボッチャサポーター養成講座の参加者も多い。

参加者の多くは高齢者であるため、世代間・地域間など相互の交流や、担い手創出への「しかけづくり」の検討を行っていく。

重点項目② 地域福祉活動への参加促進と担い手の確保（一緒にすすめる）

◆同じ地域で生活する外国人住民とつながるために

令和6年11月30日に地域福祉フォーラムを開催
→多文化共生フェスタinにしなりと同時開催

・参加者：93人（20～90代）
　アンケート回答者：54人（うち西成区居住者　34人）
・「ためになった」 と回答した人数：47人

（自由意見から抜粋）
・外国人のおかれている状況がわかった。
・最終的には町内会活動に参加してほしいと思う
・仲良く住めたらいいな～と思う。まずは声かけかな～
・多文化を支えるまちの力を感じました
・西成は異文化交流の最先端、おもしろい
・あいさつをする程度から話すようになっていけば良い

まとめ

幅広い世代の参加があり、外国人住民について、世代を超えて関心を持っていると考えられる。

→

・引き続き、多文化共生に関する内容をテーマとして開催を検討する。
・来年度も、同様の時期での開催を検討する。

重点項目④　複合的な課題を抱えた人への支援体制の構築（支援する）

◆情報発信することで、さらなる多職種の連携をめざす

・精神保健福祉連携部会（R6.5.21）
・生活保護担当新任研修会（R6.5.30）
・西成区障がい者自立生活支援調整協議会　相談支援部会（R6.11.25）
・西成区南ブロックケアマネジャー勉強会（R6.11.27）

◆相談内容の傾向をもとに、関心を高め早期発見と対応策への気づきをはかる

①「不登校・若者のひきこもり支援」（R6.11.20）
②「すぐに役立つ支援のコツ！セルフネグレクト」（R7.1.24）
・生活困窮事業とともに、区役所全職員に対し感度向上e-ラーニング研修（R6.7.4～12.31）

【アンケート結果】
①「良い」36/39人：親支援の重要性について再確認できた、引きこもり支援の考え方・認識が変わった、他
②「理解できた」53/53人：ゴミ屋敷を片付けることがゴールではなく人とつながること、他

令和6年度10月末現在
「つながる場」相談件数　：　19件
開催件数　：　5件
参加者数　：　44人

R2	R3	R4	R5
12件	13件	25件	24件
6件	5件	9件	10件
85人	79人	101人	107人

まとめ

・相談の多い事例に関する研修は満足度が高い。
・研修会の参加者層をさらに増やす必要がある。

→

・支援者間のさらなる連携とスキルアップを図る。
・民生委員等に対し事業の周知を行い、協力者を増やしていく。

重点項目③　要援護者の発見と地域における見守り体制の強化（支える体制をつくる）
重点項目⑤　地域の生活課題の解決や自分達の住む地域を「考える」場づくり支援

<共通テーマ：要援護者名簿の活用と地域の見守りについてみんなで考える>

日常生活や災害時において、
何らかの支援が必要な人の名簿

◆要援護者名簿をもとにした個別避難計画の作成

➡介護事業者(ケアマネジャー)の協力
➡要介護5の世帯を優先的にアプローチ

個別避難計画作成状況

令和4年度末	3件
令和5年度末	128件
令和6年度末	227件

（累計）

◆要援護者名簿(西成つながり名簿)の活用に向けて

◎1回/年　更新した要援護者名簿を地域に提供する
◎地域から名簿に関する情報提供を受ける
◎地域の取組状況などを聞き取る・**話し合う**

●Office SONOZAKI代表 園崎　秀治氏
(災害に備えた支援等に関するアドバイザー)
　と要援護者名簿の活用について意見交換会の実施

まとめ

個別避難計画作成に向けた、
地域にある介護事業者の協力状況は良好。

↓

現在の取り組みを継続し、地域との連携を深めていく。

連携協定を新たに締結するなど、
名簿に対する地域の関心は広がっている。

↓

引き続き、要援護者名簿の活用について、
地域と連携を図っていく。

重点項目⑤　各地域での取り組み状況

岸里地域	◆各町会長による要援護者名簿の活用についての話し合い ➡名簿の管理方法、町会加入者の見守りと情報更新を確認　＜継続中＞
松之宮地域	◆各町会長が担当町会の要援護者名簿を管理（令和7年1月～）　＜継続中＞
橘地域	◆要援護者名簿を活用した訪問活動 ➡今後の活用を、町会長が中心となり地域で考える　＜継続中＞
今宮地域	◆各民生委員が担当町会の要援護者名簿を管理（令和6年11月～）
飛田地域	◆民生委員が、要援護者名簿を活用し家庭訪問を実施 ➡民生委員と見守り相談室・包括支援センター・ブランチが協力し、地域内のマンションを個別訪問し状況の把握を行う
津守地域	◆10月10日に「防災に関するお話」として実施（町会未加入地域） ➡町内の情報発信・居場所と見守りを兼ねる場として検討中　＜継続中＞ ◆災害時を見据えた見守り活動を、1町会でモデル実施　＜継続中＞